

# 石見方言・長門方言における 推量表現形式「ロー」の使用状況

船木礼子（橋本礼子）

## 1. ラム由来の推量表現形式の分布

はじめに、現代日本語方言の推量表現形式の全体的な分布を確認するために、FPJD G-083をまとめた図1を見た。FPJDとは、2010年から国立国語研究所の共同研究プロジェクト「方言の形成過程解明のための全国方言調査」として行われた全国の方言調査のことである<sup>注1</sup>。G-083は、質問文「友達から、『あの人は今日役場に行くだろうか』と聞かれ、迷いながら『たぶん行くだろう』と答えるとき、どのように言いますか。』で、「行くだろう」の部分についての言い方を尋ねたものである。

この分布は、『方言文法全国地図5』（2002年、国立国語研究所、以下GAJと略す）の第237図と比較しても、「ダロー」「ジャロー」「ヤロー」「ペー」「ロー」「ド」「ノーワ」「ゴッタ」「ファジ」「パジ」などの主な推量表現形式の分布概況は、30年間で大きくは変わっていない（船木2007、2017）。

ただし、GAJとFPJDを比較すると、古典語のラムに由来するといわれる東海地方の「イクラ」、新潟県、高知県、島根県石見地方、山口県長門地方、大分県、奄美地方などの「イクロー」、鹿児島県、熊本県などの「イッド」などのう

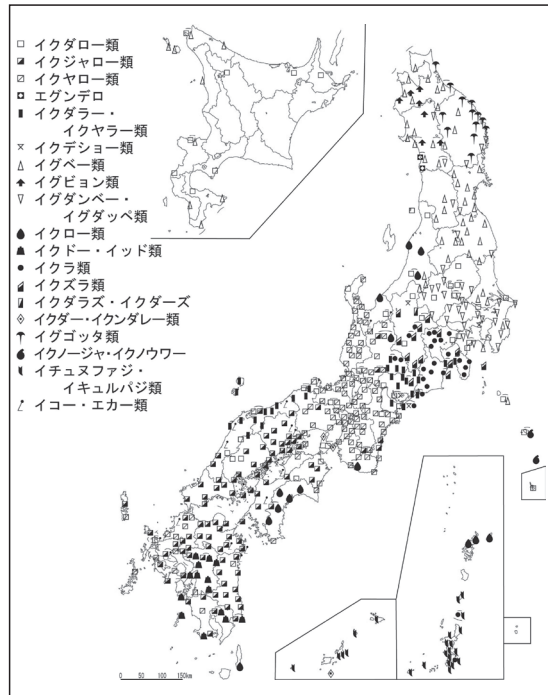


図1 FPJD G-083「行くだろう」の推量表現形式  
(船木2017より)

ち、新潟や山口県長門地方、島根県石見地方、大分県の「ロー」や、九州西南部の「ド」がかなり減っているの気がつく（船木2017）。GAJとFPJDを比較して、これらの「ロー」「ド」を回答した地点の減った様相を示したのが図2である。

本稿ではFPJDでラム由来形式の回答が著しく減った島根県石見地方、山口県長門地方に焦点を絞り、臨地面接調査で確認した現在の「ロー」の使い方を報告する。

なお本稿では、ラム由来の「ロー」「ド」「ラ」などをまとめて

扱う際は「ロー類」、またデアラム由来、つまり助詞ニテ、動詞アル未然形に推量のムが後接した形式に連なる「ダロー」「ジャロー」「ヤロ」についてまとめて扱う場合は「ジャロー類」と呼ぶことにする。

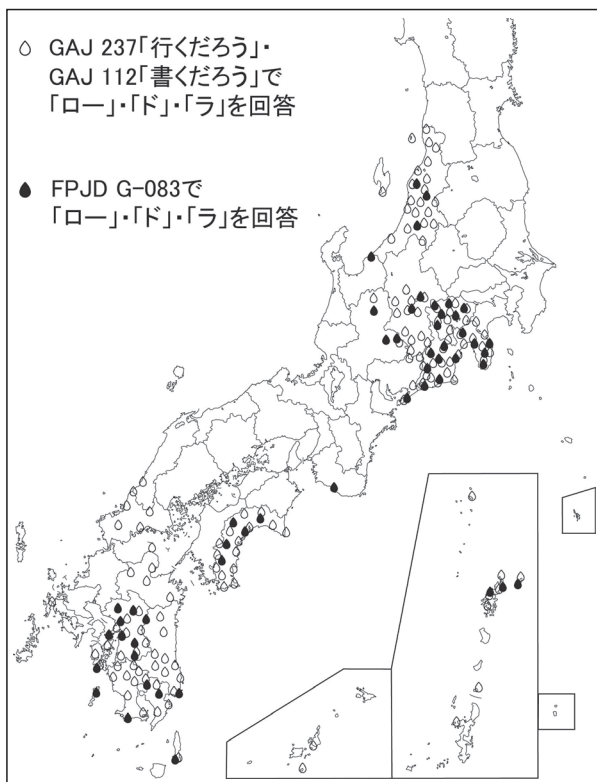


図2 「ロー」「ド」「ラ」の減少（船木2017より）

## 2. 石見・長門地域のロー類の状況

廣戸（1965）は1955年から1961年にかけて中国五県で調査したデータを方言地図にまとめたものとして貴重である。この中に推量表現の項目「高くだらう」がある。これをみると、長門地域と石見西部地域はジャロー類とロー類の併用地域である。周防地域はジャロー類が中心で、ロー類は点在する程度だが、皆無というわけではない。これに対して、石見東部は完全に「タカイダロー」一色であり、またさらに東の出雲地域に至ると「タカイダラー」「タカイダラ」が主流となる。広島県は「タカイジャロー」と「タカイダロー」が混在もしくは併用といった様相である。つまり1955～1961年の廣戸の調査時、

(16)

ロー類は長門から石見西部にわたる主たる推量表現形式のひとつだったということがわかる。なおこの資料では「タカイヤロー」のような「ヤロー」形式は凡例に挙げられていないので、この時期には「ヤロー」の使用がなかったと推測される。

神部（1982）による島根県方言の概説では、推量表現に関して次のことを指摘している。

（1）に要約して示し、（2）に用例を転載する。なお用例の表記は原本と変えており、ゴシック太字部分はアクセントの高い部分、↑は上昇イントネーションを示す。

- |   |        |
|---|--------|
| （1） 出雲・隠岐   | ダラ・ダラー |
| 出雲南部・隠岐の辺陲地域  | ジャラー   |
| 石見全体  | ダロー、ロー |
| 石見西部  | ジャロー   |
| 石見西部海岸地帯（若い女性）                                      | ヤロ     |
| （2） ナン <b>ダラ</b> <b>ネヤ</b> 。（何だろうねえ。）〈出雲北部〉         |        |
| <b>モー</b> イッ <b>タン</b> ジャロー。（もう行ったんだろう。）〈石見西部〉      |        |
| <b>マダ</b> ハ <b>ヤ</b> イヤロ↑。（まだ早いだろう。）〈石見西部海岸地帯、若い女性〉 |        |
| <b>ノーキョー</b> ヤ <b>スミ</b> ロー↑。（農協は休みだろう。）〈石見西部〉      |        |

（神部1982、230頁）

ここから出雲地域は「ダラー」「ジャラー」などジャロー類だけが使われているとわかる。「デア」融合部の発音には「ダ」または「ジャ」の違いはあるものの、形式末尾はア母音長音が主体の「ラー」（またはその短呼形）であることは共通している。

これに対し、石見地域はデアロウ由来の形式である「ダロー」「ジャロー」「ヤロ」が使われ、加えてラム由来の「ロー」もある。なお石見西部海岸部の「ヤロ」は若い女性に観察されるとあるので、その頃に方言接触により取り入れられつつあったか、「ジャ」の口蓋化が進んで成立したかのどちらかであろうが、情報が少なく判断できない。しかし、少なくとも廣戸（1965）にはなかった「ヤロ」が見られ始めたということがわかる。

注目したいのは、ラム由来のロー類の用例である。まず（2）の「ノーキョー ヤスミロー↑」と上昇調イントネーションの例が示されていることから、この例文が確認要求表現のものであるとわかる。推量表現形式は文脈やイントネーションによって確認要求表現になるが、（2）の例示から、推量表現には「ジャロー」が、確認要求表現には「ロー」が使い分けられるなどといった使用傾向の存在が疑われる。

次に、名詞述語文である（2）「ノーキョー ヤスミロー」は、名詞に直接「ロー」が後接した例文であることが注目される。いわゆる古典語のラムならば動詞や形容詞などの活用語（用言）にしか後接せず、この統語的特徴は静岡、高知、鹿児島など日本各地のラム由来推量表現形式に引き継がれているのだが、石見地域の「ロー」は他では見られない名詞に直接付くという特徴を持っているということだろうか。

この点について民話や昔話などの資料を見てみたが、今のところ(3)に示す1例しか名詞に直接付く「ロー」は見つかっていない。以下の例は石見地方の民話集である大庭編(2017a)『[新版]日本の民話67 石見の民話 第一集』(未來社、初版は1978年刊)の石東地方、邑智地方の例である。用例の末尾の〈 〉に民話の題名と、合併前の郡町村名を採話地域として記す。ただし名詞述語文の推量表現の中でこの(3)だけが「名詞ロー」なのであり、この地域のほとんどの例は「ダロー」であることに注意が必要である<sup>注2</sup>。

(3) 「おかしいことだなあ、こんな夜中にここにわしがおるいうことはわかるまいに。

どこぞわきい行く人ろう」〈「葬式の使い」184頁(邑智郡大和村)〉

民話本文の「ろう」の脇に訳注として「(だろう)」と書かれているので、編者が出典の民話集『ふるさとの昔ばなし』(大和村)の話を注意深く扱っていることがわかる。編者の大庭良美(1909~2002)は鹿足郡日原町出身の在野の民俗学者で、日原の民俗や歴史に関する膨大な、貴重な著述を残している<sup>注3</sup>。本書を編むにあたっては多種の民話・昔話集などを使うと同時に石見地域の民話収集のエキスパートである牛尾三千夫と森脇太一の協力を得ているので、信頼できる資料といえる。

次に、長門地域について先行研究の記述を確認する。

長門地域については中川(1982)の山口県方言の概説を参照する。中川(1982)は推量表現に関して次のことを指摘している。(4)に要約しつつ、用例を転載する。

- (4) 動詞 長門域 行クロー(推量)  
 全県下 死ヌジャロー・ジャロ<sup>注4</sup>  
 周防域 見ツロー(過去推量)  
 動詞否定 クマー(来まい)(推量・意志)  
 形容詞 長門域 タカーロー・タカイロー・タコーアリマショー  
 全県下 タカイジャロー  
 形容動詞 全県下 静カジャロー・静カナカロー

(中川1982、155頁・160-162頁)

これらから、長門地域も廣戸(1965)の状況と同じく、推量表現にはジャロー類とロー類が併用されていることが確認できる。ただし、過去推量の形式「ツロー」は周防域のものとなり、長門や石見でこの過去推量形式がどうなっているのかが気になる。

### 3. 石見方言・長門方言の推量表現形式——面接調査から

ここからは、鳥根県石見地域と山口県長門地域東部で実施した臨地面接調査での結果を報告する。本稿では特に、先行研究でみえてきた疑問3点に注目したい。

- ・ロー類とジャロー類との意味的使い分けの有無

(18)

- ・名詞述語文でのロー類の接続
- ・過去推量「ッロー」の使用状況

### 3.1.調査の概要

臨地面接調査の概要は次のとおりである。

- ・調査時期：2016年8月（2015年8月に予備調査、2017年8月に補足調査も実施）
- ・調査地点：石見西部地域として島根県益田市、鹿足郡津和野町、長門地域として石見に接する山口県萩市須佐の3地点を選んだ。（「益田」「津和野」「須佐」と呼ぶ）

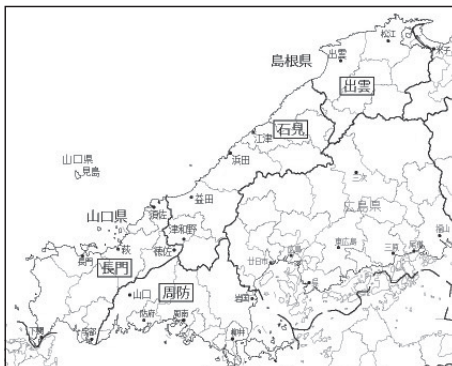


図3 調査地域広域図

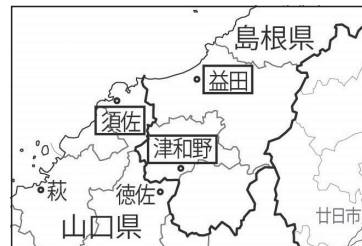


図4 調査地点

- ・被調査者：就学・就労による4～8年間の外住期間（10代後半から20代前半）を除き、3人ともほぼ生え抜きの高年層話者である。

益田：原田フジエさん（女）1946年生まれ（調査当時70歳）

津和野：山岡浩二さん（男）1956年生まれ（調査当時60歳）

須佐：吉田満さん（男）1955年生まれ（調査当時61歳）

- ・調査方法：臨地面接調査。筆者が用意した全国共通語の調査文の方言翻訳式である。文法記述のための調査なので、より詳しい回答が得られるよう、場合によって臨機応変に調査文を変えたり増やしたりもした。

なお、方言の回答語形は表音的カタカナ表記とし、意味が分かりづらい場合のみ全国共通語訳を付す。非文は\*、不自然な文は?を付けて示す。

### 3.2.推量表現

#### 3.2.1.動詞文の場合

推量表現に用いられる3地点の形式は(5)のようであった。

- (5) 友達から「あの人は今日役場に行くだろうか」と聞かれ、迷いながら「たぶん行くだろう」と答えるとき【肯定・非過去・意志動詞・行く】
- a.益田 : イクロー/イクジャロー/\*イクヤロー/\*イコー  
 b.津和野 : イクロー/イクジャロー/\*イクヤロー/\*イコー  
 c.須佐 : イクロー/イクジャロー/イクヤローデ/イコーデ

3地点は共通してロー類とジャロー類を併用する。

益田と津和野は「イクヤロー」「イコー」を使わない。この地点の高年層話者の方言においてはロー類とジャロー類の2形式だけが推量表現形式であり、「イコー」などの動詞未然形にム由来のウ・ヨウが付く形式は意志・勧誘表現の専用形になっている。

長門地域の須佐では「イクヤロー」も併用する。ただし、60代の話者より若い世代でないと使わず、70代や80代などの年齢の高い層は言わないようだ。さらに「イコー」などの動詞未然形+ウ・ヨウ形も推量表現に用いられる。ただし、「イクヤロー」も「イコー」も単体では使いづらく、終助詞「デ」を後接させて言うのが普通だという。

終助詞「デ」は共通語の「よ」などに近い、話者が命題(事態)をそのように判断しているということを相手に伝達する機能を担っている。一方で、意志表現の場合は「イコー」(終助詞なし)もしくは「イクワー」(動詞終止形+終助詞)、勧誘表現の場合は「イコーヤ」である。つまり須佐では、動詞未然形+ウ・ヨウ形を使うときは終助詞「デ」/Øまたは「ワー」/「ヤ」によって、推量/意志/勧誘を明示しているといえる。

他の動詞でも同様の傾向である。なお、一段活用動詞やサ行変格活用動詞の動詞未然形+ウ・ヨウ形の融合形は、「ミュー」「シュー」などのウ段拗長音のものが文献にはあるが(例えば廣戸1965など)、今回の調査では3地点とも不使用との回答だったので、以下の報告では挙げないことにする。

- (6) 「見るだろう」【肯定・非過去・意志動詞・上一段活用・見る】
- a.益田 : ミルロー/ミルジャロー/\*ミルヤロー/\*ミヨー/\*ミロー  
 b.津和野 : ミルロー/ミルジャロー/\*ミルヤロー/\*ミヨー/\*ミロー  
 c.須佐 : ミルロー/ミルジャロー/ミルヤローデ/ミヨーデ/ミローデ
- (7) 「開けるだろう」【肯定・非過去・意志動詞・下一段活用・開ける】
- a.益田 : アケルロー/アケルジャロー/\*アケルヤロー/\*アケヨー/\*アケロー  
 b.津和野 : アケルロー/アケルジャロー/\*アケルヤロー/\*アケヨー/\*アケロー  
 c.須佐 : アケルロー/アケルジャロー/\*アケルヤローデ/アケヨーデ/アケローデ
- (8) 「あいつはあしたたぶん来るだろう」【肯定・非過去・意志動詞・変格活用・来

(20)

る】

- a. 益田 : クルロー/クルジャロー/\*クルヤロー/\*コヨー/\*コー
- b. 津和野: クルロー/クルジャロー/\*クルヤロー/\*コヨー/\*コー
- c. 須佐 : クルロー/クルジャロー/クルヤローデ/コヨーデ/コーデ

(9) 「あいつはたぶんその仕事をするだろう」【肯定・非過去・意志動詞・変格活用・する】

- a. 益田 : スルロー/スルジャロー/\*スルヤロー/\*シヨー/\*ショー
- b. 津和野: スルロー/スルジャロー/\*スルヤロー/\*シヨー/\*ショー
- c. 須佐 : スルロー/スルジャロー/スルヤローデ/シヨーデ/ショーデ

(10) 「電池ならあの店にあるだろう」【肯定・非過去・無意志動詞・ある】

- a. 益田 : アルロー/アルジャロー/\*アルヤロー/\*アロー
- b. 津和野: アルロー/アルジャロー/\*アルヤロー/\*アロー
- c. 須佐 : アルロー/アルジャロー/アルヤロー/アローデ

### 3.2.2.形容詞文、形容動詞文、名詞述語文の場合

形容詞文の場合、意志・勧誘表現になり得ないことから、益田や津和野でも未然形+ウ形が使われる点が動詞文と異なるが、益田や津和野ではロー類とジャロー類、須佐ではこれに加えて「ヤロー」も使われるという傾向は動詞文と同じである。

(11) 「この着物はたぶん高いだろう」【肯定・非過去・ク活用形容詞・高い】

- a. 益田 : タカイロー/タカイジャロー/\*タカイヤロー/タカカロー
- b. 津和野: タカイロー/タカイジャロー/\*タカイヤロー/タカカロー
- c. 須佐 : タカイロー/タカイジャロー/タカイヤロー/タカカローデ

(12) 「珍しいだろう」【肯定・非過去・シク活用形容詞・珍しい】

- a. 益田 : メズラシイロー/メズラシイジャロー/\*メズラシイヤロー/メズラシカロー
- b. 津和野: メズラシイロー/メズラシイジャロー/\*メズラシイヤロー/メズラシカロー
- c. 須佐 : メズラシイロー/メズラシイジャロー/メズラシイヤロー/メズラシカローデ

形容動詞文は、ナ終止形にジャロー類だけでなくロー類も後接する。

(13) 「あそこは、車が通らないのでたぶん静かだろう」【肯定・非過去・形容動詞・静かだ】

- a. 益田 : \*シズカロー/シズカナロー/シズカジャロー/シズカナジャロー/\*シズカヤロー/\*シズカダロー
- b. 津和野: \*シズカロー/シズカナロー/シズカジャロー/シズカナジャロー/\*シズカヤロー/\*シズカダロー
- c. 須佐 : \*シズカロー/シズカナロー/シズカジャロー/シズカナジャロー/シズカ

## ヤロー/\*シズカダロー

名詞述語文では、3地点ともロー類を推量表現としては使わない。ただし、益田と津和野では「雨だろう」の意味として「アメロー」のような名詞直接のローが形式として成立しないのに対し、須佐では名詞に直接ロー類がつく「アメロー」が存在しており、推量表現ではなく、相手に確認する表現（確認要求）として使うという。つまり須佐では、名詞述語文の推量には「ジャロー」、確認要求には「名詞直接のロー」という使い分けがあるといえるだろう。

(13) 「あしたはたぶん雨だろう」【肯定・非過去・名詞述語・雨だ】

- a. 益田 : \*アメロー/アメジャロー/\*アメヤロー/\*アメダロー
- b. 津和野 : \*アメロー/アメジャロー/\*アメヤロー/\*アメダロー
- c. 須佐 : \*アメロー※/アメジャロー/アメヤロー/\*アメダロー (※「アメロー」は確認要求表現として使用)

## 3.2.3.否定推量の場合

否定推量（打消推量とも）の表現形式にもロー類、ジャロー類が併用される。これに加えてマイ由来の「マー」が益田、須佐では使われる。

(14) 友達から「あの人は今日役場に行くだろうか」と聞かれ、迷いながら「たぶん行かないだろう」と答えるとき、どのように言いますか。【否定・非過去・意志動詞・行く】

- a. 益田 : イカンロー/イカンジャロー/\*イカンヤロー/イクマー
- b. 津和野 : イカンロー/イカンジャロー/\*イカンヤロー/\*イクマー
- c. 須佐 : イカンロー/イカンジャロー/イカンヤロー/イクマーデ

(15) この着物はたぶん高くないだろう【否定・非過去・ク活用形容詞・高い】

- a. 益田 : タコーナイロー/タコーナイジャロー/\*タコーナイヤロー/タコーナカロー/タコーアルマー
- b. 津和野 : タコーナイロー/タコーナイジャロー/\*タコーナイヤロー/タコーナカロー/タコーアルマー
- c. 須佐 : タコーナイロー/タコーナイジャローデ/タコーナイヤローデ/タコーナカロー/タコーアルマーデ

須佐では「ヤロー」も使われている。また「マー」にも終助詞「デ」を後接させて使うのが一般的で、理由は(5)から(12)と同様、否定推量と否定意志・否定勧誘とを明示的に分けるためだと思われる。意志・勧誘表現になりえない形容詞文(15)でも「デ」が付いたほうが自然だと回答していることから、推量と意志のどちらの意味にも使われる形式を使用する場合には終助詞「デ」によって話し手の事態判断であることをマークし、こ



(22)

のことで推量だとわかるようにしていると考えられる。

津和野では「マー」が否定推量では用いられず、「イクマー」を使うのは否定意志としてである。ここから、津和野方言は推量表現にはロー類とジャロー類（否定推量なら否定「ン」と推量「ロー」または「ジャロー」の組み合わせ）、意志・勧誘表現には「動詞未然形+ウ・ヨウ」と「マー」という分析化が他の2地点より進んでいるといえそうだ。

### 3.2.4.過去推量の場合

過去推量では「ツロー」の存在を調査で尋ねたが、3地点とも不使用だった。津和野ではこの「ツロー」は大変古い形式で、相当の年配の方なら使うが、60代の話者は言わないとのことだった。過去は「タ」、推量は「ロー」または「ジャロー」が担うという分析的傾向が強くなってきたということだろう。

「ツロー」以外の過去推量表現形式については3.2.2.などの使用形式と同じである。

(16) 友達から「あの人はきのう役場に行っただろうか」と聞かれ、「行っただろう」と答えるとき【肯定・過去・意志動詞・行く】

a. 益田 : イッターロー/イッタジャロー/\*イッタヤロー/\*イッツロー

b. 津和野 : イッターロー/イッタジャロー/\*イッタヤロー/\*イッツロー※（※古い形式）

c. 須佐 : イッターロー/イッタジャロー/イッタヤロー/\*イッツロー

(17) 「行かなかっただろう」【否定・過去・意志動詞・行く】

a. 益田 : イカンカッターロー/イカンカッタジャロー/\*イカンカッタヤロー/\*イカンカッツロー

b. 津和野 : イカンカッターロー/イカンカッタジャロー/\*イカンカッタヤロー/\*イカンカッツロー※（※古い形式）

c. 須佐 : イカンカッターロー/イカンカッタジャロー/\*イカンカッタヤロー/\*イカンカッツロー

なお過去推量表現ではないのだが、a.益田とb.津和野では、条件表現の場合にかぎって「ツリヤー」という形式を用いるとの回答を得た。(18) (19)の例文で「ツリヤー」を使用するか誘導したところ、a.益田では使用すると回答し、b.津和野では話者自身は使わないが高齢の方なら言っているとのことである。さらに津和野の話者は(20)の例を出し、こうした仮定の表現ならば自分も使うと説明した。この(20)の例文は認識的条件文と解釈できるので、津和野方言ではかなり狭い意味で「ツリヤー」を残している可能性がある。

(18) 「昨日スーパーに行ったら、○○さんも来ていた。」

a. 益田 : イッツリヤー

b. 津和野 : \*イッツリヤー（※高齢の人なら使う）

(19) 「昨日、仕事に行かなかったら、〇〇さんが電話してきた。」

a. 益田 : イカンカツリヤー

b. 津和野 : \*イカンカツリヤー (※高齢の人なら使う)

(20) アイツ キノー シゴトニ イカンカツリヤー マダ アレワ ソノママ  
ジャロー (津和野の話者の自由回答、「あいつ、昨日仕事に行かなかったのなら  
(行かなかったとすると)、まだあれはそのままだろう。」に相当)

このように、推量表現の領域ではツラム由来の「ツロー」はもう姿を消しているが、条件表現としては化石的に「ツ」由来の形式が残存している。

### 3.2.5.疑問とのかかわり

古典語のラムの主要な意味に原因推量(現在推量とも)があるが、ロー類は3地点に共通して原因推量の表現として準体助詞等の介在なしで用いられており、「ロー」にはラムと同じく準体機能があるといえそうだ。以下、ロー類とジャロー類との違いに注目するため、回答語形のうち「ヤロー」は捨象して示す。

(21) 「なぜ太郎が行くのだろう」【疑問詞なぜ・動詞・のだろう相当】

a. 益田 : ナシテ イクローカ/イクンジャローカ

b. 津和野 : ナシテ イクローカ/イクンジャローカ

c. 須佐 : ナンデ イクローカ/イクンジャローカ

これに関連して、原因推量の形式が感嘆表現としても用いられるかを確かめたところ、益田、須佐では使えるとの回答、津和野はロー類が感嘆表現としては使えないとの回答だった。この点から、津和野のロー類は用法が他の2地点よりやや狭くなっているといえる。

(22) 「なんとよく飲むのだろう!」【感嘆表現・のだろう相当】

a. 益田 : ナント ヨー ノムロー/ノムンジャロー!

b. 津和野 : ナント ヨー \*ノムロー/ノムンジャロー!

c. 須佐 : ナント ヨー ノムローノー/ノムンジャローノー!

### 3.3.確認要求表現

前節までの、話し手の推量判断を一方向的に伝える表現を「推量表現」とするのに対し、話し相手に話し手の見込みなどを伝えて相手に確認をするなど、「話し手にとって不確実なことを、聞き手によって確実にしてもらうための確認を要求する」表現を「確認要求表現」と呼ぶ(三宅1996)。この確認要求表現のうち、命題の真偽を確認しているものは「命題確認要求」、聞き手に対して命題に関する知識や認識があるかを確認しているものは「知識確認要求」と呼ばれている。

(24)

松丸（2007）によると、方言の確認要求表現では、以下のような傾向があるという。

- ・ 命題確認要求では全国的に「のだ」の要素と「ない」の要素が組み合わさった形式（つまり準体助詞「の」相当のものが介在した「ので（は）ないか」等のことで、否定形式と同形式）を使う地域が多い。琉球地域では「アラン」を使用するところが他地域と異なるが、否定形式と同形式という点では他地域と同傾向である。
- ・ 近畿地方では命題確認要求に「トチガウ」という専用形式を発達させている。
- ・ 知識確認要求では「ではないか」相当の形式を使う方言はあまり多くない。代わりに推量形式や文末詞（終助詞）が使われることが多い。
- ・ 知識確認要求に2種類の形式を用いる方言では、用法に違いが見られる。

本稿では推量表現形式のロー類に焦点を絞っているので、上記の「（の）ではないか」相当の定型形式とおなじものについては捨象し、推量の諸形式がこうした確認要求表現に使われるか、また複数ある推量表現形式が確認要求表現の使い分けに関与していないかを見ることにしたい。

### 3.3.1.命題確認要求

3地点とも、命題確認要求にロー類とジャロー類が使われる。動詞文（23）の文脈ではジャロー類には準体助詞「ン」を介在させるが、ロー類は準体助詞なしで用いられる。「ロー」に準体「ン」相当の機能があると考えられる。「ヤロー」は推量表現と同じで、須佐でしか使われない。

(23) 天気予報を見てきたという相手に「明日も雨が降るんだらう？」【命題確認要求・無意志動詞降る】

- 益田 : フルロー/フルンジャロー/\*フルンヤロー
- 津和野 : フルロー/フルンジャロー/\*フルンヤロー
- 須佐 : フルロー/フルンジャロー/フルンヤロー

(24) 「おれ、酒に弱くてさ。おれの顔、もう赤いだらう？」【命題確認要求・形容詞赤い】

- 益田 : アカイロー/アカイジャロー/\*アカイヤロー
- 津和野 : アカイロー/アカイジャロー/\*アカイヤロー
- 須佐 : アカイロー/アカイジャロー/アカイヤロー

### 3.3.2.知識確認要求

知識確認要求は三宅（1996）によると、さらに「潜在的共有知識の活性化」と「認識の同一化要求」に下位分類できる。「潜在的共有知識の活性化」は、話し手と聞き手が共有知識として持っているはずの命題内容を、聞き手に前景化させる（話題にするために思い

起こさせる)ものである。一方「認識の同一化要求」は、命題として話し手の認識を伝えることで、聞き手にその認識を受け入れるよう要求するものといえる。

まず潜在的共有知識の活性化だが、3地点とも、ロー類およびジャロー類が使われる。推量表現と同様に、「ヤロー」や動詞未然形+ウ・ヨウ形は須佐でしか使われない。

(25) 「ほら、あいつはいつも水曜に公民館へ行くだろう? だから…」【知識確認要求・意志動詞行く】

- a. 益田 : イクロー/イクジャロー/\*イクヤロー/\*イコー
- b. 津和野: イクロー/イクジャロー/\*イクヤロー/\*イコー
- c. 須佐 : イクロー/イクジャロー/イクヤロー/イコー

なお動詞未然形+ウ形は、「出る」などのラ行五段化した動詞の場合に益田で「デロー」が使えると回答されるなど、全く知識確認要求に使えないわけではないようだ。「出る」の意志・推量形(デ+ム由来)が、融合形「ジョー」やヨウ析出形「デョー」だけでなく、ラ行五段動詞化した「デロー」も持つに至ったのち、益田ではこの「デロー」末尾の「ロー」が再分析によって推量のロー類と見なされた可能性がある。他方、津和野では「ジョー」も「デロー」も意志や勧誘表現としては用いるが、確認要求表現としては使えないとのことだった(推量に使えないことは3.2.1.のとおり)。

(26) 「ほら、やぶではヘビがよく出るだろう? だから長靴で行かないとだめだよ」  
【知識確認要求・意志動詞出る】

- a. 益田 : デルロー/デルジャロー/\*デルヤロー/デロー
- b. 津和野: デルロー/デルジャロー/\*デルヤロー/\*デロー
- c. 須佐 : デルロー/デルジャロー/デルヤロー/デロー

次に、「そこに、あるだろ!」や「だから言っただろう!」のような認識の同一化要求だが、(27)の質問文で自由回答を得ようとしたところ、「ではないか(じゃないか)」相当形式や、動詞終止形に終助詞「ワ」が融合した「アラー」などが回答された<sup>155</sup>。また津和野では推量形式に使わないという「アロー」(動詞未然形+ウ・ヨウ形)も回答された。これは動詞「ある」が無意志動詞であるため、形容詞と同様にウ・ヨウ形を使っても意志・勧誘表現との混乱が起こらないことが関わっているといえる。

(27) 眼鏡をさがしている友達に「眼鏡ならそこにあるじゃないか」と言うとき【知識確認要求・認識の同一化要求・状態動詞ある】(FPJD G-088と同じ質問文)

- a. 益田 : ソコニ アルジャーナーカネー
- b. 津和野: ソコニ アラーネ/アローネ
- c. 須佐 : ソコニ アラーネー

実際のところ、こうした認識の同一化要求には(28)の例に示すロー類や、ジャロー類、動詞未然形+ウ・ヨウ形などの推量表現形式と共通するものも使うほか、終助詞「ガ」も

(26)

さかんに使われている。参考までにFPJDから島根県石見地方と山口県の回答語形を表1に示す。「アロー」（動詞未然形+ウ・ヨウ形）および「アロー」に終助詞ガが後接した形式、動詞終止形と終助詞「ワ」が融合した「アラー」になんらかの終助詞が後接した形式、「ではないか」相当形式などが回答されている。

(28) (20代前半の地元の若者が、コードをつなげられるかという話題で話している。)

A：わからん。

B：や、つなげれるろー↓【知識確認要求・認識の同一化要求・ロー類】

(2015年8月、JR山陰線、益田－須佐間の列車内で自然傍受)

地点	回答語形	分類	
島根県	温泉津町 アラーヤ	終止形ワ融合形+終助詞	
	アローガナ・アローガ	未然形ウ融合形+終助詞ガ	
	石見町 アローガ	未然形ウ融合形+終助詞ガ	
	浜田市 アルガナ	終止形+終助詞ガ	
	益田市	アラーナ	終止形ワ融合形+終助詞
		アローナ	未然形ウ融合形+終助詞
六日市町	アルジャンイカ	デハナイカ類	
山口県	萩市 アルジャンイカ	デハナイカ類	
	豊浦町 アルジャンナーカ	デハナイカ類	
	小郡町	アルジャロー	ジャロー類
		アルイヤ	終止形+終助詞
	鹿野町 アラーネ	終止形ワ融合形+終助詞	
	錦町 アローガ	未然形ウ融合形+終助詞ガ	
	下関市 アローガネ	未然形ウ融合形+終助詞ガ	

表1 FPJD G-088の島根県石見地方・山口県の回答

ただ、本調査でもFPJDでも、認識の同一化要求について、ロー類、ジャロー類や終助詞「ガ」などの使用状況を網羅的に調査できているわけではない。今後補充したい。

#### 4. まとめ

島根県益田市、鹿足郡津和野町（石見地域）と萩市須佐（山口県長門地域東部）で実施した臨地面接調査の結果から、次のことが明らかにできた。

- ・ロー類とジャロー類はほとんど同じ意味・用法で使われる。須佐ではさらに動詞未然形+ウ・ヨウ形と、「ヤロー」も併用されており、推量や確認要求の併用形が非常に多い状態である。

- ・須佐では推量や意志に共通する動詞未然形+ウ・ヨウ形を推量表現に使用する場合、終助詞「デ」がほぼ義務的に共起し、推量の弁別に関わっている。
- ・疑問表現と共起する原因推量（「のだろう」相当）の場合、ロー類には準体助詞が不要だが、ジャロー類は準体助詞「ン」が介在する。
- ・須佐では名詞述語文において、「ロー」が断定辞を介さずに名詞に直接後接する。この「名詞直接のロー」は確認要求表現の専用形式となっている。
- ・過去推量「ツロー」は益田、津和野、須佐のどの地点でも現在使用されていない。

この調査によって、FPJD調査の推量表現項目ではロー類が減少したと見えた地域も、詳細に見ると併用形としてかなり使われていることが確認できた。ただし、調査文を方言翻訳するタイプの調査において、併用形の多い地域で自発的回答として出てこないということは、調査文の全国共通語「だろう」に誘導されているか、ロー類が推量表現においては優勢ではないかのどちらかであろう。同じ調査文・調査方法であったのにGAJでは回答されFPJDでは回答されていないということは、この地域での推量表現としてのロー類が優勢形式ではなくなりつつあることを示していると考えられる。

ただし、自然会話では推量表現を使うことは多くなく、確認要求表現は出現頻度が高い。この3地点では(28)のようにロー類が確認要求表現として老若男女を問わず、かなり聞かれた。このことから考えると、現在のところロー類は確認要求表現として健在だといえる。これに関して、確認要求表現、とりわけ知識確認要求については調査不足なので、今後の課題としたい。

## 【注】

- 注1 FPJDの臨地面接方言調査は2010年から2015年に、全国554地点において、主として1940年以前生まれの男性（70歳以上）に実施された。なお、後述のGAJ（『方言文法全国地図』）の調査は、1979年から1982年に当時1925年以前生まれの男性（60歳以上）に全国807地点で実施された。
- 注2 合わせて那賀地方、石西地方の民話を集めた同シリーズの大庭編（2017b）『[新版]日本の民話68 石見の民話 第二集』（未来社、初版は1978年刊）も見したが、名詞述語文ではすべて「ジャロー」であって、「名詞ロー」は皆無だった。
- 注3 大庭良美については、山岡（2014）の「大庭良美」（119-145頁）、および鳥根県津和野町ウェブサイトの「日原歴史民俗資料館」についての記事を参照した（<http://www.tsuwano.net/www/contents/1491965196904/index.html> 2017年11月5日閲覧）。また牛尾三千夫、森脇太一の協力については大庭編（2017a）『[新版]日本の民話67 石見の民話 第一集』の2頁を参照。
- 注4 山口県では「断定「だ」は、ジャが使われ、長門北部ではヤもみられる。ジャロ、

(28)

ジャッ、ジャ、○、ジャッター、○となる」とあるので、このジャ類の活用から考えると長門北部ではヤロが用いられるとも考えられるが、明確な記述はない（中川1982、161頁）。活用形によって口蓋化の度合いが異なることも考えられるので、注意すべき点である。

注5 出雲・隠岐地域には、アウ連母音の融合によってアー長音化した意志や推量の形式があるが、石見・長門地域にはないこと、またこの「アラー」には終助詞「ガ」が後接しないことから、本稿では「アラー」を動詞終止形と終助詞「ワ」の融合とみている。

### 【参考文献】

- 大西拓一郎編（2016）『新日本言語地図 分布図で見渡す方言の世界』朝倉書店
- 大庭良美編（2017a）『[新版] 日本の民話67 石見の民話 第一集』未来社
- 大庭良美編（2017b）『[新版] 日本の民話68 石見の民話 第二集』未来社
- 神部宏泰（1982）「鳥根県の方言」飯豊毅一、日野資純、佐藤亮一編『講座方言学8—中国・四国地方の方言—』国書刊行会
- 国立国語研究所編（1994）『方言文法全国地図3』大蔵省印刷局
- 国立国語研究所編（2002）『方言文法全国地図5』財務省印刷局
- 中川健次郎（1982）「山口県の方言」飯豊毅一、日野資純、佐藤亮一編『講座方言学8—中国・四国地方の方言—』国書刊行会
- 廣戸惇（1965）『中国地方五県言語地図』風間書房
- 船木礼子（2007）「推量とその分布」『日本語学』26-11、明治書院
- 船木礼子（2017）「推量表現形式の分布とその変化—地域共通形式への収斂と脱推量形式化—」大西拓一郎編『空間と時間の中の方言—ことばの変化は方言地図にどう現れるか—』朝倉書店
- 松丸真大（2007）「『確認要求表現』とその分布—否定疑問形式を中心に—」『日本語学』26-11、明治書院
- 三宅知宏（1996）「日本語の確認要求的表現の諸相」『日本語教育』89
- 山岡浩二（2014）『津和野をつづる 生粋の津和野人による津和野覚書』モルフブランニング
- 鳥根県津和野町「日原歴史民俗資料館」
- <http://www.tsuwano.net/www/contents/1491965196904/index.html>（2017年11月5日閲覧）
- 国立国語研究所「全国方言分布調査（FPJD）」
- [http://www2.ninjal.ac.jp/hogen/dp/fpjd/fpjd\\_index.html](http://www2.ninjal.ac.jp/hogen/dp/fpjd/fpjd_index.html)（2017年11月5日閲覧）

**【謝辞】**

方言の調査においては、津和野町の山岡浩二さん、益田市の原田フジエさん、萩市須佐の吉田満さんにお力添えを賜りました。長時間にわたりご協力いただき、またさまざまな情報を頂戴しましたこと、御礼申し上げます。

なおFPJDのデータは国立国語研究所ウェブサイトの「全国方言分布調査（FPJD）」よりダウンロードし、方言分布地図の作成には国立国語研究所「方言研究の部屋」で公開されている方言文法全国地図データ、白地図データ、プラグインを利用させていただきました。  
[http://www2.ninjal.ac.jp/hogen/dp/gaj-lms/gaj\\_lms.htm](http://www2.ninjal.ac.jp/hogen/dp/gaj-lms/gaj_lms.htm)（2017年11月5日閲覧）

**【付記】**

本稿はJSPS科学研究費15K02582および26244024の研究成果の一部である。